

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 12年6月 ～牽引役を失いつつある輸出

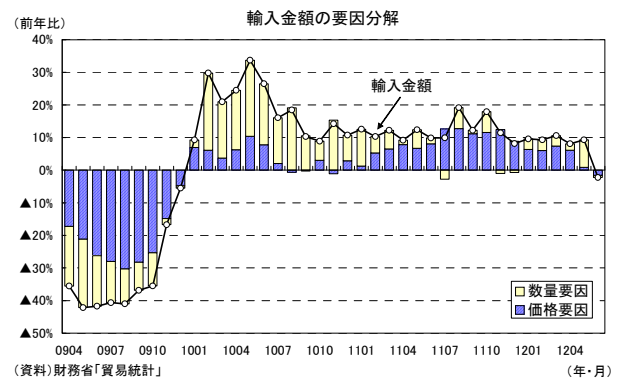
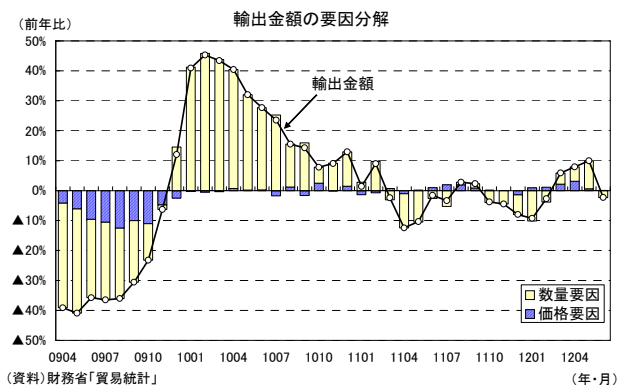
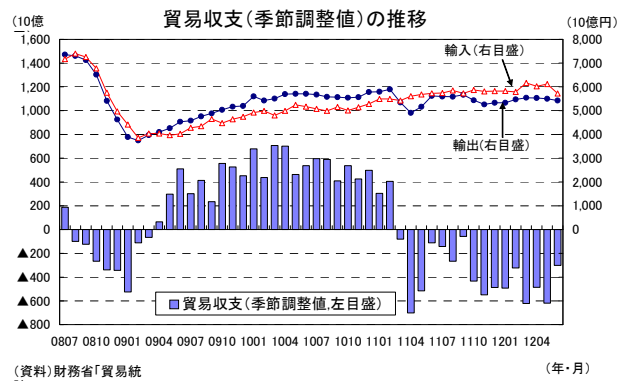
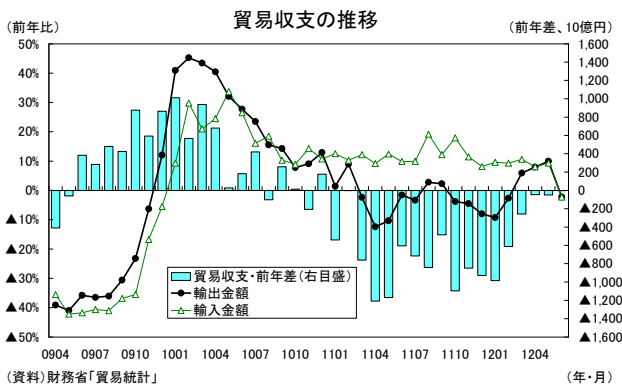
経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸入が2年6ヵ月ぶりに減少

財務省が7月25日に公表した貿易統計によると、12年6月の貿易収支は617億円と4ヵ月ぶりの黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲1,375億円、当社予想は▲78億円）を上回った。輸出は前年比▲2.3%（5月：同10.0%）と4ヵ月ぶりに減少したが、輸入が原油価格の下落などに伴い前年比▲2.2%（5月：同9.3%）と2年6ヵ月ぶりに減少したことが貿易収支の改善に大きく寄与した。

貿易収支が原数値で黒字に転換したのは、6月は貿易収支が改善しやすいという季節性も影響している。6月の貿易収支を季節調整値で見ると、▲3,008億円と16ヵ月連続の赤字となった。輸入の減少幅（前月比▲6.5%）が輸出の減少幅（前月比▲1.4%）を上回ったため、5月の▲6,183億円からは縮小したものの基調としては依然赤字が続いている。



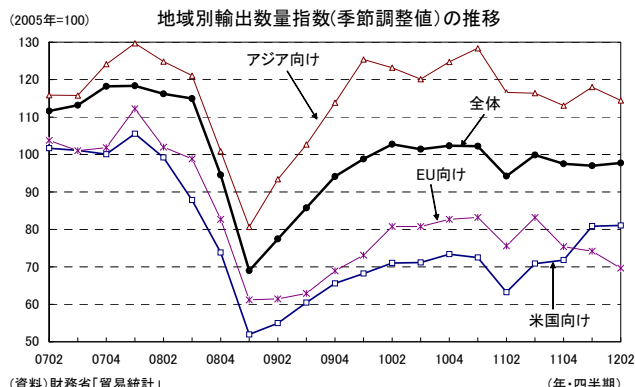
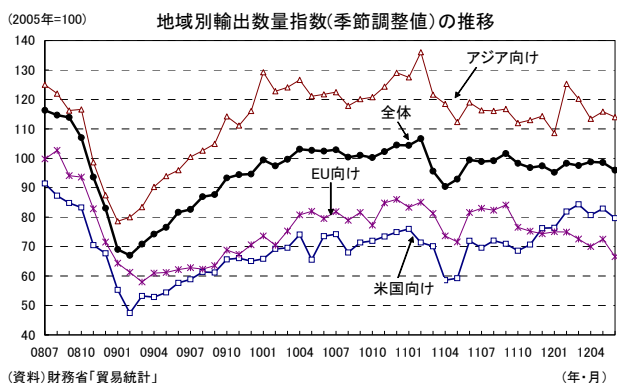
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲2.3%（5月：同9.3%）、輸出価格が前年比0.1%（5月：同0.6%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲0.7%（5月：同8.4%）、輸入価格が前年比▲1.6%（5月：同0.9%）であった。

## 2. 牽引役を失いつつある輸出

6月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比10.8%（5月：同39.5%）、EU向けが前年比▲18.6%（5月：同1.0%）、アジア向けが前年比▲4.2%（5月：同2.7%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲3.9%、EU向けが同▲8.2%、アジア向けが同▲1.6%、全体では同▲2.6%となった。

4-6月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比0.3%（1-3月期：同12.6%）、EU向けが前期比▲6.1%（1-3月期：同▲1.6%）、アジア向けが前期比▲3.0%（1-3月期：同4.4%）、全体では前期比0.8%（1-3月期：同▲0.5%）となった。景気後退が続くEU向けの落ち込み幅が拡大するとともに、欧州経済悪化の影響から景気減速が鮮明となっているアジア向けも2四半期ぶりの低下となった。米国向けは4四半期連続で上昇し、引き続き輸出全体を下支えしているものの、最近の米国経済減速を受けて伸び率は大きく低下した。輸出はここに来て牽引役を失いつつある。

一方、4-6月期の輸入数量指数（季節調整値）は前期比0.7%と3四半期連続で上昇したが、1-3月期の同1.9%からは伸びが低下した。



## 3. 4-6月期の外需寄与度はほぼゼロに

6月までの貿易統計と5月までの国際収支統計の結果を踏まえて、4-6月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出、輸入ともに前期比2%弱の伸びと見込まれる。この結果、4-6月期の外需寄与度は前期比でほぼゼロ%（1-3月期は同0.1%）となることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、7/31のweeklyエコノミストレーターで4-6月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が成長率に対してほぼニュートラルとなる中、個人消費、公的固定資本形成を中心に内需が高めの伸びとなることから、前期比年率2%台後半のプラス成長を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。